

フィリピンにわたった焼きものの

—青磁と白磁を中心に—

富山佐藤美術館 関コレクション

*Trade Ceramics Found in the Philippines
from Mr. And Mrs. Andrew Seki Drzik Collection
of Sato Art Museum Toyama*



白磁龍文盤 中国・南宋(10~11C)

2000年6月24日(土)~7月23日(日)

月曜休館 開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで)

主催:山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、YAB山口朝日放送
後援:萩市

観覧料:一般1000(800)円、学生800(600)円

※()内は前売り及び20名以上の団体料金。18歳以下の方及び高等学校・盲・聾・養護学校に在学する生徒は無料

Trade Ceramics Found in the Philippines from Mr. And Mrs. Andrew Seki Drzik Collection of Sato Art Museum Toyama



せいじほらうしゅいちゆう
青磁鳳首水注
中国・北宋(11C) 広州窯



くろしゆうかほらおしからくはもんつぽ
黒釉掻落唐草文壺
中国・南宋～元(13～14C) 福建省



おう りよくくろくろし かもんぼん
黄・緑釉黒地花文盤
中国・南宋～元(13C)



せいけいほうそうげからくきもんつぽ
青花宝相華唐草文壺
中国・明(15C) 景德鎮窯



せいじはなくいどりもんぼん
青磁花喰鳥文盤
中国・北宋(11～12C) 龍泉窯系

フィリピン諸島は7100もの島々からなっています。南海に浮かぶこの島々は、古代からインド、東アジア、東南アジア、中東からの人と物が盛んに往来する地域で、多様な文化を受容してきた歴史をもっています。中国で13世紀に書かれた文献《諸蕃誌》には三嶼(現フィリピン諸島)、麻逸(現ミンドロ島)などの地域の名称がみられ、中国と交易を行っていた事が記述されています。

1920年代からオートリー・ベイヤー教授によってフィリピン各地に散布していた陶片の収集がなされ、唐代から清代までの中国陶磁、またベトナム、タイなど東南アジア大陸部で生産された陶磁器が少なからずフィリピンにもたらされていたことが明らかになりました。特に中国の福建省や広東省など南部で生産された陶磁器がこの地に多く輸出されていたことがわかり、南海交易のイメージが少しずつ輪郭を現しはじめたのです。

今回公開する富山佐藤美術館の関コレクションは、このようなフィリピン出土の陶磁器を収集した日本では大変希少なコレクションです。集められたあらゆる個人的な陶磁器の背後に、壮大な南海の交易の歴史の姿を思い描く事ができることでしょう。

Information

●記念講演会

① 2000年6月24日(土) 10:30～12:00

「フィリピン考古学と南海交易」
小川英文氏(東京外国語大学助教授)

② 7月8日(土) 14:00～15:30

「東南アジアの陶磁器—タイ・ベトナム・クメール」
矢島律子氏(町田市立博物館学芸員主事)
両講座とも当館講座室を会場とし、聴講無料で受付先着順とさせていただきます。

●ギャラリー・ツアー(担当学芸員による列品解説)

毎週日曜日の11:00～12:00。
参加料は無料ですが、観覧料を必要とします。

●同時開催

浮世絵展示「歌川広重 名所江戸百景Ⅲ」
6月24日(土)～7月23日(日)
東洋陶磁展示「彩磁の流れ」
3月22日(水)～7月23日(日)



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0074 山口県萩市平安古586-1
TEL0838-24-2400/FAX0838-24-2401
http://www.hum.pref.yamaguchi.jp

- JR東萩駅: タクシー10分/徒歩30分
- JR小郡駅: バス70分(萩バスセンター下車、徒歩15分)
- 石見空港(島根県益田市): バス75分(萩バスセンター下車、徒歩15分)
- 中国自動車道: 小郡I.C.・美祿I.C.から各50分

ご観覧割引券

本券ご持参の方は、観覧料を200円割り引きいたします。

ご観覧割引券

本券ご持参の方は、観覧料を200円割り引きいたします。